

22 現代芸術の創造発信拠点としての地位確立

<4か年の取組方向>

- 国際芸術祭「あいちトリエンナーレ 2019」を開催するとともに、愛知芸術文化センターにおいて、各種設備の更新・改修を行いながら、質の高い発信力のある舞台芸術公演や美術展等を継続的に開催していく。また、若者を対象とした伝統文化等体験事業を実施することにより、「第31回国民文化祭・あいち2016」の成果を継承していく。
- 愛知芸術文化センター及び県陶磁美術館において、子ども向け参加型プログラムを実施するほか、「アートフェスタ-愛知県高等学校総合文化祭-」の開催、愛知県立芸術大学における新デザイン棟の整備や教育研究の充実などにより、文化芸術の担い手づくりを進めていく。
- 愛知芸術文化センターや県陶磁美術館において、館内スペースを文化芸術団体などの活動の場として提供するなど、県民、NPO、ボランティア、企業等が連携・協働した多様な交流・創造を進めていく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画（年度）				所管部局	
		2017	2018	2019	2020		
芸術創造・発信機能の強化	国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」の継続開催	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年の開催に向けた準備 ・あいちトリエンナーレ地域展開事業の実施 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・あいちトリエンナーレ2019の開催 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年の開催に向けた準備 	県民生活部
	愛知芸術文化センターでの質の高い舞台芸術や美術展等の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・オペラ、クラシックコンサート、演劇等の公演の実施 ・県美術館における企画展等の開催 ・設備の老朽化に対処するための各種設備の更新及び改修 	→	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">愛知芸術文化センター 入場者数:年間 200 万人</div>	→		県民生活部
	国民文化祭の成果の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の若者（大学生等）を対象とした伝統文化等体験事業の実施 	→				県民生活部
文化芸術の担い手づくり、支え手づくり	子どもが文化芸術を体験する機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知芸術文化センター及び県陶磁美術館での子ども向け参加型プログラムの実施 ・あいちトリエンナーレ地域展開事業（学校へのアーティスト派遣）の実施 ・アートフェスタ-愛知県高等学校総合文化祭-の開催 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・あいちトリエンナーレ2019（学校へのアーティスト派遣） 	→		県民生活部 教育委員会
	新進芸術家の育成支援	<ul style="list-style-type: none"> ・県美術館での中堅アーティストの発掘・支援及び個展の開催 ・県陶磁美術館における若手芸術家の育成支援事業の実施 ・愛知県芸術文化選奨（文化新人賞）の実施 ・あいちトリエンナーレ地域展開事業（若手芸術家の育成）の実施 	→			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">アートフェスタ参加者数: 毎年 6,000 人</div>	県民生活部

取組・施策		実施計画（年度）				所管部局
		2017	2018	2019	2020	
文化芸術の担い手づくり、 支え手づくり	愛知県立芸術大学 における教育研究 の更なる充実	・新デザイン棟の整備	→	供用開始		県民生活部
		・地域の文化芸術を担う人材や、国内外の第一線で活躍する芸術家の育成	→			
	アウトリーチ活動* の促進	・県立芸術大学による愛知芸大芸術講座の開催	→			県民生活部
	アートマネージャー* の育成	・実践的な研修の実施 ・県立芸術大学におけるアートマネジメント教育の実施	→			県民生活部
県民、NPO、ボランティア、 企業等が協働した多様な 交流・創造の実現	愛知芸術文化センターや 県陶磁美術館の事業展開に おける協働	・民間団体、ボランティアと協働した事業の実施 ・館内スペースの提供を通じた、芸術家や文化芸術団体の活躍の場の創出	→			県民生活部

【あいちトリエンナーレ2016】



【子ども向け参加型プログラムの実施（陶磁美術館）】



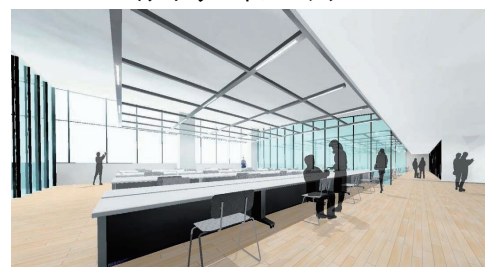
【アートフェスタ-愛知県高等学校総合文化祭-】



【愛知県立芸術大学 新デザイン棟】
＜外観イメージ＞



＜アトリエイメージ＞



23 アジア競技大会開催に向けた取組

<4か年の取組方向>

- 2026年に本県で開催する「第20回アジア競技大会」を成功させるため、組織委員会の設立、大会開催に向けた諸計画の検討、大会の広報・PRなどの準備を進めるとともに、アジア競技大会を生かした地域活性化方策の検討・具体化を図っていく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画（年度）				所管部局
		2017	2018	2019	2020	
アジア競技大会開催に向けた取組	第20回アジア競技大会（2026年開催）の準備	・アジア・オリンピック評議会との開催都市契約締結に係る協議 ・アジア競技大会組織委員会設立準備 ・大会開催に向けた諸計画の検討 ・大会の広報・PR	→			振興部
	アジア競技大会を生かした地域活性化	・地域活性化方策の検討・調査	・調査結果を踏まえた方策の具体化		→	

<コラム> 「第20回アジア競技大会」の開催決定

2016年9月25日、ベトナム・ダナンで開催されたアジア・オリンピック評議会総会において、2026年開催の「第20回アジア競技大会」の開催都市が愛知・名古屋に決定されました。

この大会は、4年に1度アジア・オリンピック評議会に加盟する45の国と地域が参加するアジア地域最大の総合スポーツ大会であり、スポーツ界にとって2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の次なる大きな目標となります。同時に、拡大するアジアとの交流を一層深める機会となるなど、愛知・名古屋のみならず、日本全国にとって大変意義のある大会となります。

本県では、アスリートファーストの観点を踏まえながら、愛知らしく簡素で質素な、そして機能的で合理的な大会とし、国際的なスポーツ大会の「愛知・名古屋モデル」をつくることをめざします。また、選手にとって最高の舞台となるとともに、大会後も未永く語り継がれ、後世への業績・財産となるよう、大会に向けた万全の準備を進めていきます。



【第20回アジア競技大会開催構想の概要】

- 開催期間：16日間と仮定
- 競技会場：36競技（追加競技を除く）の実施を仮定し、会場を想定
- 選手村：名古屋競馬場移転跡地を想定
- 財政計画

大会主催者負担経費	850億円	※左記金額は不確定要素が多いため、 更に費用の圧縮に努めるとともに、 経費を精査する。
運営経費	440億円	
競技会場仮設整備費	110億円	
選手村仮設整備費	300億円	

⇒アスリートファーストの視点を踏まえながら、簡素で質素な、機能的で合理的な「愛知・名古屋モデル」での大会の実現をめざす。

【アジア競技大会の開催経過と予定】

回	開催年	開催都市（開催国）	参加国及び地域	参加選手数
14	2002年	釜山（韓国）	44	6,572人
15	2006年	ドーハ（カタール）	45	9,520人
16	2010年	広州（中国）	45	9,704人
17	2014年	仁川（韓国）	45	9,501人
18	2018年	ジャカルタ・パレンバン （インドネシア）	—	—
19	2022年	杭州（中国）	—	—



24 全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の育成・招致

<4か年の取組方向>

- 「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知」や「新城ラリー」などのスポーツ大会の更なる育成を行っていく。また、「FIFA フットサルワールドカップ 2020」など、新たな大会の招致を進めるとともに、「ラグビーワールドカップ 2019」などの開催支援を進めていく。
- スポーツ大会や合宿の招致活動や育成活動などをワンストップで行う「あいちスポーツコミッション（2015年4月設立）を運営していく。
- 「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」事前合宿などの誘致や、スポーツ大会参加者・観戦者への地域の魅力のPRなど、スポーツを通じた地域の活性化を図っていく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画（年度）				所管部局
		2017	2018	2019	2020	
スポーツ大会の育成・立ち上げ・招致の推進	スポーツ大会の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知」の開催支援 ・「新城ラリー」の開催支援 ・「アイアンマン 70.3 セントレア知多半島ジャパン」の開催支援 ・奥三河パワートレイルの開催支援 ・木曾三川ウルトラマラソンの開催検討 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「名古屋ウィメンズマラソン」の県外・海外からの出場者数:15,000人</div>			振興部
	新たなスポーツ大会の立ち上げ支援	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなスポーツ大会の立ち上げ支援の検討 				振興部
	新たなスポーツ大会の招致	<ul style="list-style-type: none"> ・「FIFA フットサルワールドカップ 2020」の招致、開催準備（開催国決定後） ・「ラグビーワールドカップ 2019」の開催支援 ・「2018年 第7回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・愛知」の開催支援 ・「ISU グランプリファイナル国際フィギュアスケート競技大会愛知・名古屋 2017」の開催支援・気運醸成 ・第93回日本選手権水泳競技大会競泳競技の開催 ・セーリングテザー級世界選手権大会の開催、セーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会の開催 ・新たなスポーツ大会の招致の検討・開催 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">FIFAフットサルワールドカップ 2020の観戦者数:県内会場での1試合平均:3,000人</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催 (9月～10月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催 (9月)

取組・施策		実施計画（年度）				所管部局
		2017	2018	2019	2020	
スポーツ大会の招致・育成体制の充実	スポーツコミッションの設立・運営	・スポーツコミッションの運営				振興部
スポーツを通じた地域活性化	合宿などの招致や参加者・観戦者への地域のPR	・「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」事前合宿などの誘致 ・スポーツ大会会場等における地域の魅力のPR活動				振興部

【全国・世界に打ち出せるスポーツ大会】

マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知



新城ラリー



スペシャルオリンピックス



FIFAフットサルワールドカップ



ラグビーワールドカップ



セーリングワールドカップ



25 地域魅力の磨き上げ・観光客の誘致

(1) 産業観光・武将観光等の推進

<4か年の取組方向>

- 産業観光について、観光団体等が提案するツアー造成に対する支援、「愛知・岐阜観光スタンプラリー」の実施、新たな観光拠点となる「あいち航空ミュージアム」の整備・運営などの取組を進めていく。
- 武将観光について、「サムライ・ニンジャフェスティバル」等のイベントの開催や、「徳川家康と服部半蔵忍者隊」を通じた忍者観光の推進、名古屋城本丸御殿の復元支援などの取組を進めていく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画（年度）				所管部局
		2017	2018	2019	2020	
産業観光の推進	関連の施設や史跡を巡る観光ルートの開発支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の観光団体等が提案するツアー造成、イベント開催等に対する支援 ・観光バスモニターツアーの実施 			来県者数: 5,000万人 観光消費額: 1兆円	振興部
	各種イベント、メディアを活用したPR活動、近隣県やゆかりのある地域と連携したイベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・「愛知・岐阜観光スタンプラリー」の実施 ・「産業観光推進懇談会（AMIC）」への参加 				振興部
	観光拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいち航空ミュージアム」の整備及び指定管理者制度による効率的な運営 11月30日オープン	年間来場者数: 35万人			
武将観光の推進	関連の施設や史跡を巡る観光ルートの開発支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の観光団体等が提案するツアー造成、イベント開催等に対する支援 ・観光バスモニターツアーの実施 			来県者数: 5,000万人 観光消費額: 1兆円	振興部
	各種イベント、メディアを活用したPR活動、近隣県やゆかりのある地域と連携したイベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・「サムライ・ニンジャフェスティバル」等の武将観光イベントの開催 ・「徳川家康と服部半蔵忍者隊」を通じた忍者観光の推進 ・「武将のふるさと愛知」の全国発信 ・「愛知・岐阜観光スタンプラリー」の実施 				振興部
	観光拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋城本丸御殿の復元支援 	全体公開			振興部

(2) 地域独自の魅力創造・発信

<4か年の取組方向>

- 地域伝統芸能全国大会「地域伝統芸能による豊かなまちづくり大会」の開催などを通じ、愛知の伝統文化の魅力を発信するとともに、清洲貝殻山貝塚資料館の賑わい創出に向けた整備・充実、名古屋市と連携した朝日遺跡と志段味古墳群の発信など、遺跡・歴史的建造物、街並みの保存・再生・活用を図っていく。また、「なごやめし」のPRや、ロケ地の誘致、医療ツーリズムの推進、山車文化の発信など、様々な地域ブランドを活用し、国内外から本県への更なる誘客を図っていく。更に、JRグループや観光団体等と協力して、全国規模の大型観光キャンペーンを進めていく。
- 県有施設を生かした魅力の発信として、大高緑地の「ディノアドベンチャー名古屋」の運営や新城総合公園における民間活力導入施設の開設など、民間活力導入を進めるほか、愛・地球博記念公園内に「ジブリパーク（仮称）」の整備を検討していく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策	実施計画（年度）				所管部局	
	2017	2018	2019	2020		
地域ブランドの向上・効果的な情報発信・PR	愛知の伝統文化の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県民俗芸能大会の開催 ・伝統文化出張講座の開催 ・県陶磁美術館での貴重な資料の収集・保存、企画展等の開催 				振興部 県民生活部 教育委員会
	来館者数:年間10万人					
	遺跡・歴史的建造物や街並みの保存・再生・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・地域伝統芸能全国大会の開催準備 	・開催			建設部 教育委員会
		<ul style="list-style-type: none"> ・あいちヘリテージマネージャー*の養成や市町村への助言・指導による歴史的建造物等の保存の推進 ・清洲貝殻山貝塚資料館の整備・充実 ・愛知の代表遺跡（朝日遺跡と志段味古墳群）の発信（名古屋市と連携） 				
「なごやめし」の地域ブランドの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「なごやめし普及促進協議会」を通じた国内外への「なごやめし」の魅力発信 ・海外での観光プロモーション開催時及び海外旅行会社等を本県に招請した際の交流会におけるなごやめしの試食の実施 				振興部	
ロケの誘致を通じた観光資源の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャパンフィルムコミッション（JFC）主催のロケ地フェアへの出展 ・ロケ地マップの作成、パネル展等による情報発信 				振興部	

取組・施策		実施計画（年度）				所管部局
		2017	2018	2019	2020	
地域ブランドの向上・効果的な情報発信・PR	ポップカルチャーの情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSなどの活用による、PRキャラクターを通じたポップカルチャーの情報発信 ・「あいちポップカルチャーフェスティバル」の開催 ・「世界コスプレサミット」の開催支援 				振興部
	医療ツーリズムの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知の優れた医療技術を外国人に提供し医療の国際化を進めるための、医療ツーリズムの推進 				健康福祉部
	山車文化の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいち山車まつり日本一協議会」の運営 				教育委員会
	杉原千畝氏顕彰施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・杉原千畝氏を顕彰するための施設の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設のPR 			教育委員会
	愛知・名古屋ゆかりのノーベル賞受賞者顕彰施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・施設構成・展示内容などの検討調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を踏まえた施設の具体化 			産業労働部
	中部国際空港エリアにおけるMICEを核とした国際観光都市としての機能整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際観光都市としての機能整備に関する研究会」における検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討結果を踏まえた事業の推進 			振興部
	国内外への戦略的なPR	<ul style="list-style-type: none"> ・「Heart of JAPAN～Technology & Tradition」を掲げた国内外への情報発信 ・「モノスゴ愛知で待つ県」のキャッチフレーズのもとでの戦略的PRの実施 				<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 「観光地実態調査」における本県の観光地としての魅力度：全体・県民ともに80% </div> 振興部
愛知県大型観光キャンペーンの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知デスティネーションキャンペーンのプレキャンペーン 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中キャンペーン 	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターキャンペーン 		振興部	
県有施設を生かした魅力の発信	県庁本庁舎の公開イベントの充実等	<ul style="list-style-type: none"> ・本庁舎開放イベント（文化の日）における本庁舎の一般公開等の実施 				総務部
	県営都市公園での取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・愛・地球博記念公園をはじめ県営都市公園における各種行事・イベント 				建設部
	県営都市公園における民間活力導入	<ul style="list-style-type: none"> ・大高緑地ディノアドベンチャー名古屋の運営 ・新城総合公園における民間活力導入施設の開設 				建設部
	愛・地球博記念公園内における「ジブリパーク（仮称）」の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・構想の具体化に向けた調査・検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査・検討結果に基づく事業の推進 			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 2020年代初頭オープン </div> 建設部

＜コラム＞「山・鉾・屋台行事」（国指定重要無形民俗文化財）のユネスコ無形文化遺産登録

2016年11月に開催されたユネスコ政府間委員会において、全国33件の「山・鉾・屋台行事」（国指定重要無形民俗文化財）のユネスコ無形文化遺産登録が決定されました。

このうち、本県は、全国最多となる「尾張津島天王祭の車楽舟行事」（津島市・愛西市）、「知立の山車文楽とからくり」（知立市）、「犬山祭の車山行事」（犬山市）、「亀崎潮干祭の山車行事」（半田市）、「須成祭の車楽船行事と神葎流し」（蟹江町）の5件となっています。

こうした山車文化を県内外へ広く発信するため、県や関係市町村、保存団体で構成する「あいち山車まつり日本一協議会」が、山車文化の魅力を発信する公開イベントや研修会、シンポジウムの開催などの普及啓発事業を実施していきます。

ユネスコ無形文化遺産登録が決定された本県の山・鉾・屋台行事



だんじりぶね
尾張津島天王祭の車楽舟行事
(7月)【津島市・愛西市】



知立の山車文楽とからくり
(5月)【知立市】



やま
犬山祭の車山行事
(4月)【犬山市】



亀崎潮干祭の山車行事
(5月)【半田市】



だんじりぶね みよし
須成祭の車楽船行事と神葎流し
(8月)【蟹江町】

【愛知県大型観光キャンペーン】

2018年秋期に、本県において13年ぶりに開催される、JRデスティネーションキャンペーンを核に、2017年度から3年間にわたって、全国から観光客を呼び込む愛知県大型観光キャンペーンを実施します。

キャッチフレーズ	未来クリエイター愛知
サブキャッチフレーズ	想像を超える旅へ。
ロゴマーク	 <p>未来クリエイター 愛知 AICHI 2018 Destination Campaign 想像を超える旅へ。</p>

＜コラム＞県営都市公園への民間活力導入による賑わいづくり

本県では県営都市公園において、民間活力を積極的に活用し、新たな魅力の創出と多くの方々に親しまれる公園づくりを進めています。

2016年7月には、県営大高緑地公園に、自然体験型恐竜探検アトラクション「ディノアドベンチャー名古屋」をオープンしました。

また、県営新城総合公園では、「フォレストアドベンチャー新城（仮称）」の2018年3月頃のオープンを目指し整備を進めています。この「フォレストアドベンチャー」は、森の中に設置された木製の足場や階段、ワイヤー、吊り橋を利用して、地上約10メートルの空中散歩や空中遊泳などが体験できる自然共生型のアクティビティとなっており、東海三県では初の開業となります。



フォレストアドベンチャー

更に、愛・地球博記念公園に、ジブリの作品群を保存し、多くの方々に見て楽しんでいただける「ジブリパーク（仮称）」を整備する方向性について、2017年5月にスタジオジブリと合意し、民間企業の参画を募りながら、2020年代初頭の整備を目指し検討を進めています。

2005年に愛知万博が開催された愛・地球博記念公園には、ジブリ作品に登場する「サツキとメイの家」が愛知万博の「レガシー」として受け継がれ、現在も多くの方が訪れています。

また、愛知万博10周年の2015年に開催された全国都市緑化フェアにあわせ、「ジブリの大博覧会」も開催されました。

ジブリ作品に一貫して流れる、人、いきもの、地球に対する「愛」は、「自然の叡智」をテーマとした、愛知万博の理念と合致するものであり、ジブリ作品の世界を更に広げていくことで、愛知万博の理念継承につなげていくとともに、世界に通用するコンテンツであるジブリ作品を、クールジャパンとして世界に向けて発信していきます。



「サツキとメイの家」

（3）広域観光の推進

＜4か年の取組方向＞

- 中部地域の酒蔵のある街や、お酒にまつわるアクティビティを紹介する「昇龍道日本銘酒街道」の取組など、県域を越えた広域的な視点に立ったテーマ性やストーリー性を持った観光ルートの開発を進めていく。
- アジア諸国をターゲットとして、東海地区外国人観光客誘致促進協議会や一般社団法人中央日本総合観光機構、昇龍道プロジェクト推進協議会と連携した旅行会社・メディアの招請や国際旅行博への出展のほか、トップセールスやアジア大商談会の実施、ムスリム観光客を受け入れる環境整備などを進めていく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画（年度）				所管部局
		2017	2018	2019	2020	
広域観光の推進	テーマ性やストーリー性を持った観光ルートの開発	・昇龍道プロジェクト推進協議会の取組の1つとしての昇龍道日本銘酒街道推進会議の開催 ・産業観光・武将観光の推進				振興部
	アジア諸国をターゲットとしたトップセールスやPR事業の実施	・東海地区外国人観光客誘致促進協議会と連携した旅行会社・メディアの招請				振興部
		・一般社団法人中央日本総合観光機構、昇龍道プロジェクト推進協議会と連携したミッションの派遣			昇龍道9県の外国人延べ宿泊者数: 1,400万人泊	
		・観光プロモーション、知事によるトップセールスの実施、国際旅行博への出展、「アジア大商談会」の開催 ・ムスリム観光客の受入環境整備促進				

(4) 誘客力、おもてなしの力の向上

<4か年の取組方向>

- 県観光協会をはじめ観光関係団体、市町村等と連携した観光展や観光プロモーションなどを展開し、地域が一体となった誘客を図っていく。
- おもてなしの気運の醸成を図るため、「産業観光あないびと育成研修会」による観光ボランティアガイドの育成に取り組んでいく。
- 交通機関や観光施設の多言語表示の促進、公衆無線 LAN の整備・普及など、観光客の利便性向上を図っていく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画（年度）				所管部局
		2017	2018	2019	2020	
誘客力の向上	市町村などと連携した観光展や観光プロモーションの展開	・観光説明会の開催 ・観光パンフレット等の作成 ・地域の観光団体等が提案するツアー造成、イベント開催等に対する支援 ・名古屋市との連携による観光プロモーションの実施			県外から本県に訪れる人数: 全体 5,000万人、うち外国人 400万人	振興部
おもてなしの気運醸成	県民参加によるおもてなしの推進	・「産業観光あないびと育成研修会」の実施による観光ボランティアガイドの育成			観光実態調査で「非常に満足」と回答する旅行者の割合: 全体 30%、外国人 50%	振興部
観光客の利便性向上	観光・交通案内等の充実	・アクセス情報の多言語化などの鉄道会社等への働きかけ				振興部
	インターネットに接続する環境整備	・無線LANの整備・普及の促進 ・あいち無料公衆無線LAN推進協議会の運営 ・県有施設における無料公衆無線LAN環境の整備			振興部	

26 国際展示場の整備とMICEの戦略的な誘致・開催

<4か年の取組方向>

- 常滑市の空港島において「愛知県国際展示場」の2019年9月の開業をめざし、設計施工一括発注方式による実施設計及び建築工事を進めるとともに、コンセッション方式による運営事業者の選定や展示会主催者等に向けた広報及び営業活動などの準備を進めていく。
- 愛知県国際展示場において、技能五輪全国大会・全国アビリンピック、「ワールドロボットサミット」など、国際的な大規模イベントを継続的に開催していくほか、「愛知・名古屋MICE推進協議会」を中心とした新たなMICE*の誘致・開催に向けた取組や、案内表示の多言語化や無料公衆無線LANの整備など受入環境の整備を進めていく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画（年度）				所管部局
		2017	2018	2019	2020	
国際展示場の整備	愛知県国際展示場の整備（再掲7(2)）	<ul style="list-style-type: none"> ・設計施工一括発注方式による実施設計及び建築工事の実施 ・コンセッション方式による運営事業者の選定 ・展示会主催者等に向けた広報及び営業活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・開業準備 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">9月開業予定</div> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者による運営 		振興部
MICEの誘致・開催	MICEの開催・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・技能五輪全国大会・全国アビリンピックの開催に向けた推進協議会の設置及び2020年度技能五輪全国大会・全国アビリンピックの基本計画の策定 ・ワールドロボットサミットの開催準備 ・メッセナゴヤの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度大会の実施計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度大会の開催 ・2020年度大会の実施計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度大会の開催 ・開催 	産業労働部
	新たなMICEの誘致・開催	<ul style="list-style-type: none"> ・「愛知・名古屋MICE推進協議会」によるMICE誘致の取組の推進 ・「Heart of JAPAN～Technology&Tradition」を掲げた海外MICEプロモーションの展開 ・「あいち国際会議開催補助金」による助成 			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">国際会議の開催件数：年間200件</div>	振興部
	MICEの受入環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・観光施設、公共交通機関等の案内表示の多言語化に向けた取組の推進 ・空港・ホテルから会議施設への移動利便性向上に向けた交通事業者への働きかけ ・無料公衆無線LAN環境の整備・利用の促進、周知・広報 ・あいち無料公衆無線LAN推進協議会の運営 				振興部

【愛知県国際展示場】

○空港島に日本初の国際空港隣接型となる展示面積
6万㎡の展示場を整備。2019年9月開業予定。
○運営に「コンセッション方式」を導入し、民間の
創意工夫と経営感覚を生かし、展示会を企画展示。

＜機能＞

- ・展示ホール 10,000㎡×6室=6万㎡
- ・会議室 18室
- ・駐車場 約3,400台



＜コラム＞新たな交流拠点となる常滑市の空港島

中部地域の空の玄関口である中部国際空港がある空港島では、2019年9月の開業に向け、展示面積6万㎡の「愛知県国際展示場」の整備を進めており、2019年度には「技能五輪全国大会」、2020年度には「技能五輪全国大会・全国アビリンピック」や「ワールドロボットサミット」など、大規模イベントが開催される予定となっています。また、ボーイング787初号機の展示を中心とした複合商業施設「FLIGHT OF DREAMS」が2018年夏頃オープン予定のほか、LCC向け新ターミナルや、複数のホテルの開業も予定されています。

こうした中、2017年8月、「中部国際空港東・常滑りんくう地域」が都市再生緊急整備地域に指定されました。同地域においては、都市計画の特例（用途、容積率等の緩和）や一定規模以上の民間都市開発事業に対する税制支援及び金融支援などの活用が可能となり、新たな民間投資につながる事が期待されます。

また、本県では、中部国際空港エリアを中心に、MICEを核とした国際観光都市を目指して、「国際観光都市としての機能整備に関する研究会」を2017年8月に設置し、国際観光都市としての魅力ある機能整備のあり方について、調査研究を進めているところです。その中において、数多くのMICEを呼び込むため統合型リゾート（IR）についても、調査研究を進めています。

本県では、こうした様々な取組を進めながら、空港島における交流拠点性の更なる向上を図っていきます。

